

石倉 志朗さん（岡山県岡山市北区出身）  
2018年度1次隊 青年海外協力隊  
派遣国：キリバス 職種：日本語教育  
2019年7月14日（日）中国新聞 SELECT 掲載



※中国新聞社の許諾を得ています

## 日本語の奥深さ再認識

助詞の「は」と「が」はどう違うの？

この質問に、私は即座に答えられなかった。後で文献に当たり、聞き手と話し手の両者によって共有されている知識には「は」、話し手が発話する時点では聞き手にとって未知である知識には「が」であることを、例文を交えて説明しても反応は鈍かった。こういったことを分かりやすく説明することの難しさを感じると同時に、ふと初心に帰った気分にもなった。

私は岡山県内の高校で国語科の教員をしていた。外国で日本語を教える経験をすれば、日本語への新しい視点が得られ、帰国後の授業の幅が広がる。その思いが、青年海外協力隊へ志願した大きな理由だった。

私が現在活動している「船員養成校」では、日本の漁船で働くための日本語や日本の文化・習慣などを教えている。キリバス国内には産業や働き口がほとんどなく、訓練生たちは日本の漁船での就労を目指して日々訓練に励んでいる。

彼らの多くは日本への憧れを抱いている。キリバスで走る車のほとんどは日本車であり、「メイド・イン・ジャパン」への信頼は厚い。また、漁船で働くキリバス人の知り合いから、日本の街や日本人の素晴らしさを聞いているらしい。私の日本での勤務校である井原市立高とインターネットを使い合同授業をした際には、訓練生たちの表情はいつも以上に輝いていた。

残りのキリバス生活は、私自身が日本語を学ぶ姿勢を示し、彼らの「日本人像」に応えられるように意識しながら過ごしたい。彼らのために、そして私自身の帰国後の糧のために。



キャプション：  
かるたを使って平仮名を学ぶ訓練生たち